

は　じ　め　に

本市は、鹿児島県の北西部に位置し、本土区域の中央部には熊本県の白髪岳を源流とする一級河川の川内川が貫流しています。平成１７年１１月には蘭牟田池がラムサール条約湿地に登録され、平成２７年３月には甕島国定公園が誕生しました。風光明媚かつ豊かな自然環境の中には、多様な生態系が構築されています。

かつて、いわゆる「産業型公害」と呼ばれた大気汚染や水質汚濁などは、こうした各地域の豊かで美しい自然環境を危機に曝してきましたが、昨今の規制強化や人々の環境に対する意識の変化等によりある程度沈静化してきました。その一方で、身近な事業活動や日常生活の多様化により、地球温暖化や生物多様性の損失といった地球レベルでの環境問題へと広がりを見せています。

世界的な気候変動問題は、今や「気候危機」と言われるようになり、温室効果ガスの排出を抑制する「緩和」の取組に加え、気候変動の影響に対処し、被害を少なくする「適応」も重要になっています。

また、持続可能な社会を構築するためには、大量生産・大量消費を前提とする線形経済（リニアエコノミー）から、資源を循環利用し続けながら新たな付加価値を生み出し続けようとする循環経済（サーキュラーエコノミー）のシステムへの転換も急がれます。

本市では、ＳＤＧｓの理念に基づき、多様性と包摂性のある社会の実現や持続可能で魅力的なまちづくりを推進すること、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言（薩摩川内市未来創生ＳＤＧｓ・カーボンニュートラル宣言）するとともに、「サーキュラーパーク九州」構想に基づき、火力発電所跡地を循環経済と脱炭素化の推進による持続可能な社会の構築に向けた資源循環の拠点として、各種事業を進めているところです。

今後もこれらの施策に加え、自然環境の保全と持続可能な地域社会の構築、さらに環境・経済・社会の統合的な向上を目指し、各般の施策を展開していきます。

本書は、令和５年度における本市の環境の現況と施策の実績等を取りまとめたものです。市民の皆様により一層のご理解をいただくとともに、市民・事業者・行政が官民一体となり環境の保全に向けた具体的な取組を進めていくための一助となれば幸いです。

令和７年２月

薩摩川内市長　田　中　良　二